

# TRAVEL JOURNAL

Japan's No.1 Travel & Tourism Business Magazine  
観光立国を支えるすべての人々に向けて

2019  
11/11

## 珠玉の1冊

キーパーソンの書棚から



■ 誌上セミナー

海外政府観光局のトリセツ  
早瀬陽一(アビアレップス代表取締役)

■ 好評連載

視座

中村好明  
(日本インバウンド連合会理事長)

SCRAP

グーグルヒツーリズム

観光経営の未来シナリオ

清水泰志(ワイスエッジ代表取締役)

ビジネスパーソンの日々雑感

有川鴻哉(ホットスプリング代表取締役CEO)

DATA |

渡航先別日本人訪問客数

国・地域別訪日外国人客数



# 珠玉の1冊

## キーパーソンの書棚から

観光の時代といわれながら、観光事業者にとって先行きが見通しにくい時代である。

これまでのビジネスモデルが音を立てて崩れ始めているからだが、一方で虎視眈々と商機をうかがう猛者もいる。

いま私たちは何を道標にすればいいのだろう。

読書の秋恒例の選書企画。キーパーソンが選んだ珠玉の1冊に学んでいきたい。

**本**書は哲学者の九鬼周造が日本人に根付く美意識や価値観を江戸時代の話をなぞらえ、論理的な分析で表現した作品である。あらかじめ断つておくが、原作は文章が古すぎて現代人には理解し難い。解説本も多く出ているので、時間のない方にはそちらもお勧めしたい。

本書の中に「運命によって『諦め』を得た『媚態』が『意気地』の自由に生きるのが『粹』である」という名言がある。九鬼によれば「粹」とは、「媚態」と「意気地」と「諦め」の3要素からなり、媚態とはほれた異性を自分のものにしたいという欲望から出る色気のこと。しかしこの色気はほれた相手をものにすると弱まるため、そこに至るまでの意気地と諦めといったある種の緊張感があってこそ媚態は持続し、強くじみ出る。意気地とはヤセ我慢、諦めはあまり欲望に執着しない態度。媚態に絶妙なブレーキをかけるような意気地と諦めがあつてこそ、魅力的な色気となり、それを粹というわけである。なんとも面倒くさく、非合理的なものである。

しかしこれらの要素は、現代の日本のクールさやサブカルチャーの非合理性と、日本的な美意識や価値観を理解する意味でも納得できるのではないか。また日本の観光サービスを粹の3要素（諦め、媚態、意気地）でコンセプトチェックし、訪日外国人に何を日本のカルチャー（異文化）として伝えるべきかを理解する意味でもオモシロイ。

われわれの営むサービス業は形のないものである。特に観光ビジネスは物質的なものより体験や視覚的

なものが価値となるだけに、その無形の価値を正確に伝えることが難しい。しかし「粹の構造」は、目に見えない日本文化の価値観でさえ論理的に解釈することが可能であると教えてくれる。

一般的に消費者の大半は安価な商品を探すことには多くの時間を費やす。それは単に商品の価値を価格でしか比較できないからだろう。将来AI（人工知能）が発達すればそれも不要となり、人はそのままプラットフォーム上に情報を提供することに汗をかくだけとなる。しかしこれでは値下げが繰り返され、利益は削られ、サービス自体の質の低下は避けられない。われわれ旅行業者は本当に良いサービスを旅行者に適正な価格で届けるため、無形の価値をいかに論理的に表現するかを考え、創意工夫を重ねていかなければならぬ。

それができるのは人間だけだ。情報化社会のなか、安い価格競争に時間を費やす、提供するサービスの価値を論理的に伝える方法を常に探し、それを可能とした企業や人だけが、これからサービス業、そして社会で生き残る存在になる。



### Profile

ふたぎ・わたる ●1971年石川県生まれ。2004年にベルトラ入社。VELTRA.comのシステム開発とオンラインマーケティング、サービスプランニングの責任者を歴任。海外事業本部長を経て、15年から現職。

## 「いき」の構造

### 他二篇

九鬼周造著

日本民族に独自の美意識をあらわす語「いき（粹）」とは何か。「運命によって諦めを得た『媚態』が『意気地』の自由に生きるのがいき」である。九鬼（1888-1941）は「いき」の現象をその構造と表現から明快に把えてみせたあと、こう結論する。再評価の気運高い表題作に加え「風流に関する一考察」「情緒の系図」を併収。（解説：多田道太郎）



青 146.1  
岩波文庫

私が贈る1冊

# 「いき」の構造

九鬼周造著 岩波書店

二木渉 ベルトラ代表取締役